

【インタビュー】独立行政法人 都市再生機構

こんにちは！浪江町役場産業振興課渡邊です。

棚塩産業団地では、独立行政法人都市再生機構（以下「UR」）が団地造成等の基盤工事を施工しており、造成工事が完了した敷地から順に各事業者へ引渡しをしています。

今回は、URの現場担当者、塩間さん、山下さんに事業進捗状況や意気込み等を伺いました。

渡邊）基盤工事の完了予定はいつになりますか？

塩間）2018年4月に着手し、造成が完成したところから順次、各事業者へ引渡しています。今年度未完了予定です。

渡邊）事業の進捗状況を教えてください。

塩間）2019年9月末時点で、全宅地の90%近い範囲の引渡しが終わりました。消火栓や防火水槽なども完成しました。残る工事は道路工事、舗装、緑地整備です。

渡邊）各事業者が団地内で工事を行っていますが、こういった点に注意されていますか？

山下）基盤整備工事を進めながら、同時進行で水素製造施設やロボットテストフィールド滑走路等の各種施設工事も行なわれている点です。

渡邊）具体的にはどういったことでしょうか？

山下）道路が完成していない状態で宅地の引渡しをしていますので、工事用通路を設けて共同利用したり、車両通行を一方通行にして、安全に配慮しながら各工事を進めています。

渡邊）関係各者との調整が大変ですね。

塩間）はい。これまで携わってきたニュータウン開発などでは生じなかった事柄も多く、関係各者様と協力しながら工事を進めています。

渡邊）今後の意気込みをお聞かせください。

塩間）工事期間中は、粉塵などで近隣の皆さまにご迷惑をおかけしております。残り約半年、安全第一で現場作業を進めてまいります。引き続きどうぞ宜しくお願いいたします！

渡邊）ありがとうございました！

今後も、棚塩産業団地に関わる事業者の方々の熱い気持ちをインタビューしていきます！

発行：浪江町 産業振興課
UR都市機構 浪江復興支援事務所

電話番号 0240-34-0248
電話番号 0246-38-8044

令和元年 10月29日発行 第5号

棚塩産業団地だより

浪江町棚塩産業団地の整備に関する情報をお届けします。



浪江町イメージアップキャラクター「うけどん」

元・宇宙飛行士の山崎直子さんが現地視察に来られました！



＜視察の様子＞
令和元年10月撮影



＜質問する山崎委員＞
令和元年10月撮影

2019年10月9日、株式会社コマツの坂根正弘顧問を座長とする、復興庁「浜通り地域の国際教育研究拠点有識者会議」の委員5名が水素エネルギー研究フィールド（FH2R）を視察されました。

元・宇宙飛行士の山崎直子委員からは「FH2Rで作られた水素を浪江町内で活用できるといいですね。」という旨のご意見をいただきました。

水素は、環境にやさしい次世代エネルギーとしての利用が期待されています。特に、FH2Rでは太陽光発電による電力で水素製造を行うため、水素製造時にCO2は排出しません。

町内での利用について、町としてもしっかりと検討を進めてまいります。

水素エネルギー研究フィールドの試運転が始まりました！

水素エネルギー研究フィールド（FH2R）は、2019年9月で建屋内外の主要な工事が完了し、同年10月から試運転を開始しました。



＜FH2R上空＞
令和元年10月撮影

始めに、各機器の調整運転や安全確認等を行った後、来年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、水素製造を徐々に本格化させます。

引き続き、安全第一で作業を進めてまいります。



＜太陽光パネル上空＞
令和元年10月撮影



＜水素ホルダー上空＞
令和元年10月撮影

棚塩産業団地の工事進捗状況をお知らせします

棚塩産業団地では、ドローン（無人航空機）を使って定期的に空から現場の状況を撮影しています。



◀福島ロボットテストフィールド滑走路 附属格納庫工事が進んでいます▶

《鉄骨建方の施工状況》令和元年10月撮影



滑走路附属格納庫工事においては、鉄骨・鉄筋・コンクリートの各工種工事が順調に進められております。現在は、鉄骨建方、床部の配筋作業を行っており、今後は建具工事に着手する予定です。なお、滑走路附属格納庫工事全体は、今年度末の完成を目指します。

◀福島水素エネルギー研究フィールド▶

再生可能エネルギーを利用した水素エネルギーシステムを、NEDO*が整備します。

ここで製造する水素は、2020年東京オリンピック・パラリンピックを始め、様々な場面で活用が見込まれています。

* NEDO：国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

◀福島ロボットテストフィールド▶

(滑走路・滑走路附属格納庫)

無人航空機用滑走路として、飛行試験、操縦訓練に使用する施設です。

福島県が本産業団地と南相馬市の2か所に滑走路を整備し、2019年度中の開所を予定しています。

◀企業誘致エリア▶

イノベーション・コースト構想関連企業を誘致し、雇用創出を図るエリアを整備します。

エリアの一部において、木材製品生産拠点施設の整備を進めています。

● 東京オリンピック・パラリンピックでの水素利用

2018年12月に開催された、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会の有識者会議において、聖火台や聖火リレーのトーチに水素などの再生可能エネルギーを使用するよう提言されました。また、同会議では浪江町（FH2R）で製造された水素を使う案も意見として出されています。

● 福島県内における水素ステーション整備状況

- ◇ 移動式水素ステーション：大型トラックで水素を運搬し、運搬先でトラックから直接、車（FCV）に水素充填。福島市と郡山市間を走行中。
- ◇ 商用定置式水素ステーション：一般的なガソリンスタンドと同規模のスタンド。2019年3月、いわき市にて東北2例目となるスタンド開所。
- ◇ コンパクトな水素充填設備（SHS）：畳約5枚分のサイズのコンパクトな水素充填設備。郡山市役所、南相馬市のガソリンスタンドに設置。